

校長の自慢 『模擬選挙』

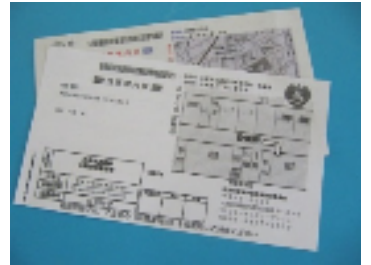
「投票なんかしたって なんもかわれへん」生徒の一言が始まりでした。

今年の6月、選挙権が現在の20歳以上から18歳以上に引き下げる改正公職選挙法が成立しました。来年夏の参院選から適用され、高校3年生の中に新たに有権者が生まれます。高校でも選挙への事前指導が求められる状況の中、「投票なんか・・・」と言われた社会科の先生が

「11月の大阪W選挙を題材に『模擬選挙』をやりたい」と言い出しました。本校の生徒にとっても意義のある学習になると判断しました。ただし、条件を付けました。「選挙管理委員会とよく協議し、できるだけ本物に近い模擬選挙にすること」そして、「先生方の政治的中立性を担保できるようにすること」でした。



社会科の先生たちは、文科省のHPの「模擬選挙」を調べ上げ、選挙管理委員会に連絡し、授業計画を練り始めました。本校では、3年生に限定せず模擬選挙の実施を全学年対象としました。投票までに数回の授業の中で、「参政権、選挙の意義と基本的なしくみ」「今回の大阪知事選挙・市長選挙の争点」「候補者の政見・選挙公約を比べる」などを学習しました。当然、放映されたテレビニュースも新聞記事も教材としました。また、本物の選挙公報も大阪府選挙管理委員会と西淀川区選挙管理委員会から借り、先生方の政治的中立性を守るために職員会議で全教職員にこの「模擬選挙」の意義や目的についても説明しました。



本物へのこだわりも多数みられました。候補者は当然実名でした。実際の投票箱・投票台も西淀川区選挙管理委員会からお借りしました。また、生徒には各自の氏名入りの「投票案内状」も配布しました。生徒会選挙の選挙管理委員会をこの模擬選挙の選挙管理委員会として立ち上げもしました。本物と違うのは、期日前投票がないことくらいでした。



「ただいま校内模擬選挙の投票をおこなっています。自分たちの生活と大阪をよりよくしていくために、自分で考えて、自分の意見を1票という形で出し、みんなに知ってもらう機会です」と校内放送が流れます。本物の大阪W選挙の前日11月20日が本校の模擬選挙の投票日でした。生徒たちは自分の足で投票場に向かっていました。



11月24日（火）、実際の大阪W選挙の結果判明後、校内での模擬選挙の開票作業を行いました。生徒たちの投票結果では、府知事選が実際と違っていました。また、投票率は知事選挙が44.7%、市長選挙が45.9%と実際の大阪W選挙と近い数値でした。18歳選挙が近いこともあり、3年生の投票率が90%を超えていました。しかし1・2年生の低い投票率が課題とも言えます。

「リアルに投票しているようだった」と生徒の感想文にありましたが、今回はリアルさにこだわってできたことが生徒の学習により大きな効果につながったようです。これはまさにアクティブラーニングと言えます。生徒の感想には

「(候補者が)大阪を変えようとしてたくさんの考えを言っていて、変えたいところがいろいろ出てきて面白かった」

「一票っていうのが大切なんだなって模擬選挙をやったって思いました」

「来年には選挙権を得るのでしっかり考えたい」

などと肯定的な意見がある一方で「選挙は難しい」「関心がない」という声もあり、まだ政治や選挙に無関心な生徒が多いという事実も浮き彫りになりました。ただし、この試みが「自ら考え、自ら判断する主権者を育てる」ことの大事な一歩となったことは間違いありません。